貫井の風
令和５年度
臨時号
練馬区立貫井中学校　学校だより

令和５年度・学校評価に関わる
保護者・生徒・教員アンケート結果

学校評価に関わるアンケートのご協力、大変ありがとうございました。いただいたアンケートを分析し、分析結果について学校関係者評価委員会の方々からもご意見をいただきました。それらの内容を令和５年度以降の教育活動に活かして参ります。

〇アンケート数　生徒（３０８）　保護者（１４３）　教員（２０）
〇①思わない　②あまり思わない　③思う　④とても思う　⑤わからない
＊以下の数値は各質問項目の、④とても思うと、③思うを合わせて％で表した数値です。

学力向上（１）～（５）

（1）落ち着いた雰囲気、環境の中で、授業が行われていると思いますか。

生徒	保護者	教員
６７％	７５％	７５％

（2）学校の授業を通じて、生徒に基礎・基本が身に付いていると思いますか。

生徒	保護者	教員
８６％	７４％	５０％

（3）タブレットやデジタル教科書等のＩＣＴ機器を効果的に利用し、生徒の学習意欲が高まっていると思いますか。

生徒	保護者	教員
８４％	５１％	８５％

（4）道徳授業を通して生命を大切にする心や思いやりの心などが育っていると思いますか。

生徒	保護者	教員
８８％	７４％	７５％

（5）補習や宿題・課題、ワークシートや質問の対応等を通じて、各教科の学力補充が行われていると思いますか。

生徒	保護者	教員
８３％	５９％	６５％

〇学力向上について

・　落ち着いた雰囲気、環境で授業が行われているかの問いかけに対して生徒の数値が昨年同様に低い。これは授業中の私語や生徒の集中力の欠如、休み時間の過ごし方等にも問題があるのかと思われる。日々の生徒指導を通じて意識の改善とともに、

主体的に学ぶ姿勢を育みたい。

生徒には授業を通して基礎・基本が身に付いている意識はある。しかし、生徒と保護者、教員との数値に乖離がある。定期考査等の結果に反映される成果を得るためには、生徒が自ら進んで学習できるよう家庭学習習慣の定着を身に付ける必要がある。学校側からは課題の提示、質問への対応等さまざまな形での学力補充の取組をしている。生徒には分からないことは「すぐに質問する、先生に尋ねる」などの自ら学ぶ姿勢をもってほしい。また、教員側は学習習慣の定着や学力補充に結びつく取組として、生徒用タブレット等 ICT 機器を一層活用した授業や指導の工夫等を通じて、基礎・基本と学習習慣の定着、そして学力向上を図りたい。ただその前提として、生徒がしっかり学ぼうとする意識をもつように仕向けたい。

道徳指導を通じて生命を大切にする心や思いやりの心は少しずつ育まれていると考える。日々の学校生活の中でも生徒が人を思いやる行動が、生徒自らが主体的に行動する場面においても子どもたちが育っていると実感することが多くなっている。

健全育成（６）～（１０）

（6）生徒は行事、部活動、生徒会活動を通じて楽しい学校生活を送っていると思いますか。

生徒	保護者	教員
９０％	９２％	９０％

（7）学校生活を通じて、礼儀や言葉遣い、あいさつの習慣がしっかり身に付いていると思いますか。

生徒	保護者	教員
９５％	９１％	８０％

（8）学校に相談しやすい雰囲気や生徒の相談等に適切に対応していると思いますか。

生徒	保護者	教員
７２％	６２％	９５％

（9）部活動が計画的に実施され、生徒の意欲を高めるものとなっていますか。

生徒	保護者	教員
８５％	７７％	７５％

（１０）学校の施設や設備、環境は、安全できれいだと思いますか。

生徒	保護者	教員
８３％	７６％	７０％

○健全育成について

・多くの生徒、保護者、そして教員が、生徒自身の学校生活は楽しいと思っている。大変嬉しいことである。また、生徒の学校生活等における挨拶の習慣が確実に身に付いている事が数値から分かる。宿泊行事や校外学習、さらには貫井中を訪問される外部の方々、保護者の方々からもお褒めの言葉を頂く機会が多い。あいさつは人生を歩む上で大切な習慣である。生徒には卒業後の人生においてもコミュニケーションの大切な手段である認識を持ち続けさせ、本校のよき伝統として「大きな声」で生徒たちのあいさつ習慣は消したくない。

さらに、生徒会活動や諸活動、部活動を通じて主体的な取り組み姿勢が育まれ、さまざまな日常生活の場面に教育活動の効果、成果が表れている。地域の知らない方々からもクレームではなく、「お褒めの電話」を頂くことがある。

コロナ禍の中で生徒が床を中心にした清掃活動をさせられずにいる実態があったが、コロナ禍が明け、床掃除等にも取り組むようになっている。今後も生徒には諸活動を通じて、環境美化に努める意識を一層高めていきたい。

（8）の生徒の悩み等は相談しやすい雰囲気かの数値は、昨年度に比較すると生徒、保護者

とも少しだけ伸びている。ただ、何でも相談アンケート以外に悩みや心配事について相談しやすい日常的な雰囲気をつくる必要がある。教員側からの声かけやアプローチ、学校とＳＣ、関係諸機関との連携、学校と家庭の双方向からの連絡、連携を密にした、相談しやすい雰囲気や環境づくりに尽力していきたい。

キャリア教育（１１）～（１５）

（１１）生徒会・委員会・係当番活動を通じて、生徒の自主性が育まれていると思いますか。

生徒	保護者	教員
９１％	８８％	８０％

（１２）運動会や合唱コンクール等の学校行事を通じて、生徒の主体的な態度が育まれていると思いますか。

生徒	保護者	教員
９１％	９６％	８５％

（１３）職業調べ、職場体験学習、上級学校調べ等の進路学習は、生徒が将来を考えるきっかけとなっていると思いますか。

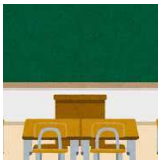
生徒	保護者	教員
８８％	７９％	８５％

（１４）進路だより等を通じて、進路選択に関わる情報が学校から適切に提供されていると思いますか。

生徒	保護者	教員
７９％	６５％	９０％

（１５）学校生活やセーフティー教室等を通して、生徒の規範意識や危機管理意識が育まれていますか。

生徒	保護者	教員
８１％	６９％	８５％



○キャリア教育について

・　生徒会活動、校外学習や宿泊行事、スポーツ大会、その他のさまざまな行事や諸活動を含めた取組において生徒が主体的な取り組むことができる実践場面を学校として設定できたことが、（１１）、（１２）、（１３）の数値等に表れている。これは本校のキャリア教育の成果と捉える。やはり日頃の机上の学習と行事、そして諸活動等を上手く融合させてこそ大きな成長の糧となる。生徒たちが主体的に主役となって行動することは大変嬉しく、行事そのものが生徒の成長場面になっているものと思われる。

　ただ、進路選択に関わる情報提供が、適度に、適切に、そして学校と家庭間の双方向でできていない現実があるように思います。進路だより等のタイムリーな発行に限らず、家庭がほしい情報、学校が提供したい情報の整理整頓を日常的に進めていく必要があると思います。情報の適切な提供と交換が３年生の進路選択に限らず、貫井中生の適切な進路選択に結びついていくものと考えます。そのためには確かな学校とご家庭の協力が必要と考えます。

　話は変わりますが、２年生の職場体験学習は地域商店会等の方々の多大な協力や支援を受けていることを付記しておきます。協力や支援は当たり前のことではなく、あくまでも事業所等の善意なのです。そのことを生徒も、保護者の方々も、そして我々教員も決して忘れてはいけないとお思います。

開かれた学校づくり（１６）～（１７）

（１６）学校だよりや学年だより等、さまざまな通信、ホームページにより、学校生活のようす

がわかりやすく伝えられていますか。

生徒	保護者	教員
８２％	８４％	９５％

（１７）学校公開、道徳授業地区公開講座、保護者会、三者面談等は生徒の学校生活を知る機会になっていると思いますか。

生徒	保護者	教員
８３％	９０％	１００％

○開かれた学校づくり

・　学校だより、学年だより、給食だより、保健だより、学級通信、生活指導だより、図書だより、その他、そして学校ホームページ等で情報の提供は今年度も多岐にわたり、（１６）、（１７）の生徒、保護者、教員の数値にもそのようすが表れ、大変充実していると考えます。多くの先生方が学校での生徒たちのようすを的確に捉え情報提供をしている努力を認めていただけたらと思います。今後もたより等を通じた情報の提供により学校と各家庭の結びつきを強めていきたいと思います。それから学校公開の際には、ぜひ子どもたちの思春期特有の「学校に来てほしくない」という考えに屈せず学校にご来校いただき、お子さんのようすを参観頂ければと思います。今年度の学校公開日、学校公開週に来校された保護者の総合計は２２０名です。（１月現在）学校公開時にご来校いただき、授業等をご参観いただいた際の感想等をアンケート等でぜひお聞かせ頂きたいと思います。

　学校公開、道徳授業地区公開講座、保護者会、三者面談等は、学校と保護者が生徒の成長に関する情報を共有し、連携する機会になっていると数値には表れています。これからも、継続的に適切な機会を通じて学校と家庭が互いに向き合い、連絡、相談、報告、意見交換、確認という場を意識してもつことは必要と考えます。今後も各家庭のご協力をお願いいたします。

（１８）小中一貫教育

（１８）児童・生徒の交流（部活動見学、出前授業）を通して、小中一貫教育が進められていると思いますか。

生徒	保護者	教員
７４％	４６％	３５％

○小中一貫教育について

・　この小中一貫教育については、なかなか保護者の方や地域の方に情報が分かりやすくお伝えすることが難しい事項だと思います。練馬区では区教委の指導の下に、小中一貫教育グループ（貫井中、練馬第二小、練馬第三小）が先ずは編制されています。例え向山小学校からある程度の生徒たちが入学してきたとしても、このグループ編制は変わらないのです。先ずはそのことをご理解頂く必要があります。そして、このグループの中では、生徒が入学した際にスムーズな中学校生活を送れるように生徒の情報をグループの中で交換をします。そして、中学校側から中学校進学を意識してもらうために、学校見学、部活動体験や見学（合唱コンクールのリハーサル見学を含む）、そして出前授業の実施などにより中学校への進学意識を高めていきます。

　特に今年度からは、部活動体験・見学について貫井中学校では近隣の小学校（練馬二小、練馬三小、向山小、中村西小、富士見台小）に対して、年間を通じて顧問に直接連絡をしてもらい、予定が合えば体験や見学ができる体制（システム）を取っています。そのことも保護者や地域の方々に知って頂ければと思います。

　現在、小中一貫教育研究グループでは各教科の先生と養護の先生で小中学校の課題共有シートを作成しています。課題共有シートとは、子どもたちの教科学習や健康等について小中が共通の目標を持ち、連携して子どもたちに身に付けていく力の指標とするものです。今後は課題共有シートについても紹介できる機会があれば紹介をしていきたいと思います。